

第28回伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト最優秀賞（宮城県知事賞）



「朝焼に舞う」 佐々木勝行 栗原市栗駒

写真展スケジュール

期間	会場	展示
2/1~3/31	宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター	全作品
5/2~5/30	登米市伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター	入選作品
6/3~6/28	登米市役所1階ロビー	入選作品
7/3~7/30	栗原市役所1階ロビー	入選作品
8/1~8/30	栗原市サンクチュアリセンターつきだて館	入選作品

『第28回伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト』に県内外から96人の応募がありました。日本写真家協会員の井村淳氏が審査を行い、20点の入選作品が決まりました。県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンターでは応募全作品を2月1日からご覧いただけますのでご来館ください。また、その外の会場では、入選作品を巡回展示します（左記）。

野鳥の観察で自然を満喫



1月19日の第10回伊豆沼・内沼自然体験講座『ガンの飛立ち観察会&沼歩き探鳥会』に県内外から21人が参加しました。専門家の解説により、沼の周辺で様々な野鳥を観察しました。参加者から「マガンの飛立ちは圧巻」「野鳥の細やかな説明により、種類の多さを知ることができ満足」といった感想がありました。

← ダイサギを発見 日の出と共に伊豆沼から飛び立ったマガン →



— 北海道滝川高校が伊豆沼で実習

文部科学省のスーパーサイエンスハイスクールに指定されている北海道滝川高校の生徒6人が、1月6日に伊豆沼で実習しました。宮城県多賀城高校の生徒7人との合同実習です。始めに、当財団の研究者が伊豆沼・内沼の自然環境や保全活動のあらましについて講義しました。続くドローン実習では、伊豆沼の自然再生事業等における実例を紹介し、その有用性を説明しました。終わりに、野外に出てめいめいがドローンの操縦体験です。滝川高校では「既に所有しているドローンを活用した研究を今後計画したい」「伊豆沼での操縦体験を研究テーマを考える機会にしたい」とのことでした。



ドローンで空からパチリ 実習お疲れ様でした

— カモ類のGPS追跡



マガモを中心としたカモ類21羽にGPS-TXというGPS送信機を装着して、その行動を追跡しています。カモ類は夜行性のため、目視で追跡することができず、その生活は謎でした。これまでのところ、夜間、河川や湛水田などを利用することがわかってきており、今後の追跡が楽しみです。なお、捕獲に際し、ご協力いただいた大場勝見氏、三浦初男氏には心よりお礼を申し上げます。

← GPS-TX(矢印)を装着されたマガモのオス

— 第13回 伊豆沼・内沼研究集会を開催します

伊豆沼・内沼研究集会を下記の日程で開催します。国内有数のガンカモ類の飛来地として知られる伊豆沼・内沼では、地域住民、行政、研究者などが一体となり、環境の保全や教育、自然と人とのふれあいの場を作る活動が行われています。近年では、増えすぎたヒシなどの水草を効率的に減らす取り組みや、ドローンなどの新たな技術を用いた保全が行われています。研究集会は、伊豆沼・内沼で研究をしている方々に、日頃の成果を発表いただく場です。どなたでも参加いただけますので、お気軽にお越しください。



昨年度の様子

日時 2月17日(日) 13時30分～17時00分

場所 宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター 1階研修室

— 伊豆沼・内沼生きもの図鑑 北帰行間近のマガン

マガンの主食は稲刈り後の落ちモミですが、採食による落ちモミの減少とともに落ち大豆、麦類などに変わっていきます。北帰行間近には渡りや繁殖に備えてタンパク質含量の高い食物を採食することがわかっていて、畦の草本類も重要な食物資源です。渡りが近くなると畦に一人で並んで青々とした草本類を採食する姿を見ることができます。



マガンのエサとなる草本類、左からカラスムギ、ハコベ、タネツケバナ



畦(あぜ)で採食するマガン



〒989-5504 宮城県栗原市若柳上畑岡敷17-2
宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター
指定管理者 (公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団

Tel0228-33-2216 Fax0228-33-2217
ホームページ:<http://izunuma.org/>
E-mail:izunuma@circus.ocn.ne.jp

